公立大学法人金沢美術工芸大学

第３期中期目標期間

業務実績（見込）評価書

（令和４年度～令和９年度）

金沢市公立大学法人評価委員会

目次

Ⅰ　評価方法 . . . . . 1～2

１　評価の構成 . . . . . 1～2

２　項目別評価 . . . . . 1～2

ア　法人による自己評価
イ　評価委員会による評価

３　全体評価 2

Ⅱ　評価結果 3

１　全体評価 3

２　項目別評価 . . . . . 4～7

①　大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
②　大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
③　大学の教育研究等の質の向上に関する目標（社会との連携に関する目標）
④　大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）
⑤　業務運営の改善及び効率化に関する目標
⑥　財務内容の改善に関する目標
⑦　自己点検・評価及び情報の提供に関する目標
⑧　その他業務運営に関する重要目標

Ⅰ　評価方法

１　評価の構成

「項目別評価」及び「全体評価」による。

２　項目別評価

ア　法人による自己評価

法人が作成した中期計画の最小単位の項目（以下「小項目」という。）ごとに、法人自らが、以下の４段階の区分により、その達成状況を判断理由を付して評価する。

※中期計画の大項目第６から第 10 に関しては業務実績（見込）のみのため記載省略

【評価基準】

評価区分	評　　価　　内　　容
Ⅳ	中期計画を上回って達成する見込みである
Ⅲ	中期計画を十分に達成する見込みである
Ⅱ	中期計画を十分には達成しない見込みである
Ⅰ	中期計画を達成しない見込みである

イ　評価委員会による評価

(ｱ) 評価委員会は、法人が行った自己評価の結果について妥当性を確認し、法人と評価の結果が異なる場合は、評価が異なる理由を示すものとする。

(ｲ) 評価委員会は、(ｱ)の評価結果を踏まえ、法人の業務実績（見込）を総合的に検証し、中期目標の次の大項目（大学の教育研究等の質の向上に関する目標については、中項目）ごとに、以下の５段階の区分により達成状況を評価するとともに、特筆すべき点や改善が望まれる点についてコメントを付す。

中期計画	大項目（中項目）
第１	①　大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （教育に関する目標）
	②　大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （研究に関する目標）
	③　大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （社会との連携に関する目標）
	④　大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （その他の目標）
第２	⑤　業務運営の改善及び効率化に関する目標
第３	⑥　財務内容の改善に関する目標
第４	⑦　自己点検・評価及び情報の提供に関する目標
第５	⑧　その他業務運営に関する重要目標

※（　　）内は中項目

【評価基準】

評価区分	評　　価　　内　　容
S	中期目標の達成状況が非常に優れている
	※　評価委員会が特に認める場合
A	中期目標の達成状況が良好である
	※　評価委員会の小項目別評価が全てⅣまたはⅢ（注）
B	中期目標の達成状況が概ね良好である
	※　評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が９割以上（注）
C	中期目標の達成状況が不十分である
	※　評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が９割未満（注）
D	中期目標の達成のためには重大な改善事項がある
	※　評価委員会が特に認める場合

（注）評価区分は目安であり、社会情勢等の変化による進捗の遅れや、小項目の比重を考慮して評価委員会で判断

３　全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標期間の業務実績全体について記述式により総合的に評価する。なお、評価を通じて得られた大学運営に関する課題や改善事項等についても、併せて記載するものとする。

また、評価制度が大学運営の検証という役割に加えて、大学の活動状況を市民に公表する役割も担っていることから、大学の特色ある取り組みや工夫等については、積極的に評価するものとする。

Ⅱ　評価結果

１　全体評価

中期計画に定めた全ての項目が着実に実施され、項目別評価においても全項目がＡ評価（中期目標の達成状況が良好である）であり、第３期中期目標期間（令和４年度～令和９年度）に係る業務実績（見込）に関しては、全体として「中期目標の達成状況が良好である」と評価する。

第２期中期目標期間（平成28年度～令和３年度）に引き続き、第３期中期目標期間においても、業務内容を充実させるために積極的に取り組む姿勢が随所に見受けられる。

特筆すべきは、令和５年度の新キャンパス移転において、充実した教育環境・学習設備の整備に努め、「開かれた美の探求と創造のコミュニティ」としてのキャンパスの実現を推進したことである。

具体的には、新キャンパスに新設した「共通工房」については、技術専門員を配置した管理・運営体制を構築して効果的に運用できる利用環境の整備に取り組み、「専攻の枠を超えて自由に利用できる」というコンセプトに沿った利用環境を整えるとともに、各棟に新設した展示スペースの「アートコモンズ」では、授業や講評会等での活用のほか、キャリア支援目的の企業展示、外部機関の研究発表にも活用することで、学生が社会と関わりながら学べる環境を確立するなど、新キャンパス施設を活用した特色ある教育を推進するとともに、教育環境・学習環境の更なる向上につなげている。

このほか、以下に大学の特色ある取り組みや工夫等として評価できるものを挙げる。

- 令和６年度から新たに、北陸地域の大学発スタートアップの創出を支える「Tech Startup HOKURIKU（TeSH）」に参加し、コーディネータによる相談等を通じて教員の起業意識醸成に努めた結果、令和７年度にギャップファンドプログラムに採択された「領域横断的かつ高付加価値アート作品を通じた富裕層向けアートビジネスの事業化を目指す研究課題」に取り組んだこと。
- 「金沢マラソン完走メダル」や「株式会社湖池屋『プライドポテトＪＡＰＡＮ』日本の神業 金沢甘えび」のパッケージ、東京・原宿に所在する穏田神社の授与品（お守り）のデザイン制作、金沢市立病院における待合ホール全体を使った美術展示等を行うなど、専攻等の特性に応じた実践的な能力を身につける機会を充実させ、特色ある教育を推進したこと。

２　項目別評価

①　大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

評価	Ａ（中期目標の達成状況が良好である）

中期計画記載の 19 の小項目のうち、Ⅳ評価（中期計画を上回って実施している）が３項目、Ⅲ評価（中期計画を十分に実施している）が 16 項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

○　特筆すべき点

- 新キャンパスへの移転等を契機として、デザイン科の改編や工芸科の収容定員拡大を実施し、全学的にカリキュラムの一部改正を行うなど、教育の充実を図ったこと。
- 新キャンパスでは、専門領域を横断した幅広い制作活動を行うことができる「共通工房」、各棟に作品展示や研究発表に活用する展示スペースの「アートコモンズ」を新設して、教育環境・学習環境の更なる向上につなげたこと。

②　大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）

評価	Ａ（中期目標の達成状況が良好である）

中期計画記載の６の小項目のうち、Ⅳ評価が２項目、Ⅲ評価が４項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

○　特筆すべき点

- 令和６年度から新たに、北陸地域の大学発スタートアップの創出を支える「Tech Startup HOKURIKU（TeSH）」に参加し、コーディネータによる相談等を通じて教員の起業意識醸成に努めた結果、令和７年度にギャップファンドプログラムに採択された「領域横断的かつ高付加価値アート作品を通じた富裕層向けアートビジネスの事業化を目指す研究課題」に取り組んだこと。

③　大学の教育研究等の質の向上に関する目標（社会との連携に関する目標）

評価	A（中期目標の達成状況が良好である）

中期計画記載の７の小項目のうち、Ⅳ評価が４項目、Ⅲ評価が３項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

○　特筆すべき点

- 石川県立図書館との連携事業として、学生の作品展示や「石川県立図書館トートバッグ」のデザイン制作で協力したほか、輪島市立図書館への書架の無償提供、金沢大学と共催した能登の中高生を対象としたデッサン交流会の開催、被災した石川県立輪島漆芸技術研修所の卒業を控えた研修生への制作室や宿舎の提供など、地域社会や他機関との連携を推進したこと。
- 「金沢マラソン完走メダル」や「株式会社湖池屋『プライドポテトＪＡＰＡＮ』日本の神業 金沢甘えび」のパッケージ、東京・原宿に所在する穏田神社の授与品（お守り）のデザイン制作、金沢市立病院における待合ホール全体を使った美術展示等を行うなど、専攻等の特性に応じた実践的な能力を身につける機会を充実させ､特色ある教育を推進したこと。

④　大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）

評価	A（中期目標の達成状況が良好である）

中期計画記載の４の小項目のうち、Ⅳ評価が１項目、Ⅲ評価が３項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

○　特筆すべき点

- 新たな教務システムや証明書発行システムの導入により、Ｗｅｂでの成績等の確認や各種証明書の即時発行が可能となり、学生の利便性向上や窓口業務等が改善されるなど、大学全体のＤＸ化により教育環境の向上や事務処理の効率化を推進したこと。

⑤　業務運営の改善及び効率化に関する目標

評価	A（中期目標の達成状況が良好である）

中期計画記載の５の小項目の全てがⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

○　特筆すべき点

・　理事長（学長）を補佐する体制を確立するため、関係規程等の所要の改正を経て副学長を配置したほか、弁護士との顧問契約により、常時法律的な助言を受けることができる体制を整備するなど、ガバナンス体制の充実を図ったこと。

⑥　財務内容の改善に関する目標

評価	A（中期目標の達成状況が良好である）

中期計画記載の８の小項目のうち、Ⅳ評価が２項目、Ⅲ評価が６項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

○　特筆すべき点

・　産学連携事業及び地域連携事業において、受託件数及び受託研究収入が年々増加しており、令和７年度には 40 件、「Tech Startup HOKURIKU（TeSH）」を含めて 81,377 千円を計上したほか、「かなびサポーター」制度を中心とした教育研究基金について、積極的な寄附の獲得に努めたこと。

⑦　自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

評価	A（中期目標の達成状況が良好である）

中期計画記載の４の小項目のうち、Ⅳ評価が１項目、Ⅲ評価が３項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

○　特筆すべき点

・　新キャンパス移転に向けて、大学のブランド力向上のためにビジュアル・アイデンティティを再構築し、この仕組みを反映したホームページや大学案内等の刷新により、大学の魅力を効果的に発信することで、オープンキャンパスでの来場者数の継続的な増加につながるなど、大学の認知とイメージ向上に努めたこと。

⑧　その他業務運営に関する重要目標

評価	A（中期目標の達成状況が良好である）

中期計画記載の 10 の小項目のうち、Ⅳ評価が１項目、Ⅲ評価が９項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

○　特筆すべき点

・　共通工房では技術専門員や相談役教員を配置し、利用マニュアルや研修を通じて専攻の枠を超えた利用促進に取り組むとともに、アートコモンズでは授業や講評会等での活用のほか、キャリア支援目的の企業展示、外部機関の研究発表にも活用することで、学生が社会と関わりながら学べる環境を確立するなど、学内施設の効果的な運用を図ったこと。